

## 第15回京都府がん医療戦略推進会議緩和ケア部会 議事概要

1 日 時 令和4年2月21日（月）午後6時00分～午後7時30分

2 開催方法 Web開催

3 出席団体

京都府立医科大学附属病院、京都大学医学部附属病院、京都第二赤十字病院  
京都市立病院、京都第一赤十字病院、京都医療センター、京都桂病院、  
宇治徳洲会病院、京都岡本記念病院、市立福知山市民病院、  
京都山城総合医療センター、京都中部総合医療センター、  
京都府立医科大学附属北部医療センター、舞鶴医療センター、三菱京都病院、  
済生会京都府病院、洛和会音羽病院、武田総合病院、京都鞍馬口医療センター、  
京都民医連中央病院、綾部市立病院、日本パプテスト病院、京都府

4 議事概要

1 京都府民に対する緩和ケア情報へのアクセスの構築について

- ・拠点病院を中心に、京都府内の緩和ケア医療体制についての事前アンケートを実施。
- ・府民に必要な情報をピックアップし、府ホームページ「がん情報ネット」  
(<https://www.pref.kyoto.jp/gan/contents.html>)へ掲載予定。
- ・「在宅緩和ケアへの対応」は、訪問診療医との連携の有無と、訪問診療実施の有無とに分けて掲載。
- ・拠点病院だけでなく、府内の緩和ケア病棟を有する施設は全て掲載すべき。  
→ホスピスは、緩和ケア病棟・ホスピス連絡会議に所属している施設は個別対応、それ以外の施設は「京都健康医療よろずネット」で呼びかける。
- ・緩和ケアチームの有無、相談窓口の電話番号を追加。
- ・情報の更新は年1回（年末～年始にアンケートを実施）とする。

2 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 第9回緩和ケア部会\*について

※令和3年12月10日 主催：国立がん研究センター

- ・国のがん対策と地域の医療計画とのリンクが課題とされ、全国どこでも適切な緩和ケアを受けられる体制を実現するには、地域包括ケアに緩和ケアを組み込むことが重要であり、どれだけの方がどのような病気で、どこで亡くなるのかといったデータを、各都道府県の部会で取りまとめるよう要望があった。当部会では、今後1年かけて取りまとめた。
- ・拠点病院と市中病院（後送病院）との緩和ケアの質の差が問題視された。  
→京都府としては、後送病院での緩和ケアチームの必要性や需要を見出したいが、設置要件や、診療報酬の低さといった点から、後送病院には負担が大きい。その結果、ホスピス等と調整してから後送病院に転院させるといった手間が発生している拠点病院もある。今後の検討課題とする。
- ・がん診療連携拠点病院整備指針に対する見直し提案では、在宅だけでなく、後送病院との連携についても指定要件に含まれるのではといった印象を受けた。

- ・次期がん対策推進基本計画では、都道府県の連携協力を担保する工夫が必要であり、地域全体の緩和ケア普及の主導的立場を拠点病院が担う方向で調整されている。

### 3 緩和ケア部会で共有するデータについて

- ・第2期京都府がん対策推進計画における目標値は、第3期計画を策定する上でも焦点となる。
  - ・自宅看取りは30.6%となっているが、緩和ケア白書では12%。どのように緩和ケアが実施されているのか推測できるデータが必要。
  - ・拠点病院等の現況報告を見ると緩和ケアにおける各施設の特徴が表れている。
  - ・緩和ケアチームに関しては、今後、国による実地調査やピアレビューが実施していく方向性とよめるので、それに向けた準備を行っておきたい。
- ⇒以上から、今後、部会として取り組むべきことを考えてほしい。

### 4 事前アンケートについて

- ・21施設中、18施設より回答を得た。
  - ・具体的な部分については、次回部会前に詳細をお聞きし、部会でディスカッションの時間を設けられたらと考えている。
- ⇒今回、多く回答いただけた項目を中心に、国の部会での課題も含め、今後、共有・検討を行いたい。

### 5 緩和ケア病棟・ホスピス連携会議より報告

#### 1) 京都ホスピス緩和ケア病棟 (PCU) 連絡会

- ・2021年12月時点で16施設（府内の緩和ケア病棟を有している全施設）が加入。
- ・3か月毎に連絡会議を実施。主な内容は、日々の診療における問題点の共有。

#### 2) 京都府民のための、府ホームページでのPCU情報提供サービス

- ・国がん提供の検索サービスが2020年に終了したため、京都版を作製したい。
- ・どの種別の施設までを公開対象とするか、他府県のホームページを参考に、情報収集に努めている。
- ・府ホームページ「がん情報ネット」に掲載いただきたい。

→「緩和ケア病床を有している施設」を公表対象にしてはどうか。

→「病床所有＝施設基準上、定数がある」ので問題ないとする。公表方法は、新型コロナの診療検査医療機関一覧のページ

([https://www.pref.kyoto.jp/kentai/corona/shinryo\\_kensa.html](https://www.pref.kyoto.jp/kentai/corona/shinryo_kensa.html))を参考にしてはどうか。

- ・更新頻度は、各施設の概要は年1回、リアルタイムに更新が必要なものは都度更新とする。

#### 3) コロナパンデミック下で運用開始した「京都PCU運営状況共有システム(Google Drive)」

- ・コロナ禍で、緩和ケア病棟の空床情報を共有するため、Google Driveを用いたシステムを構築、運用を開始した。
- ・共有情報は以下のとおり（一部抜粋）
  - ・稼働状況（フル稼働、一部制限、要相談、停止中）

- ・新患（外来）予約までの時間
- ・待機時間（新患予約から入院までの時間） 等々・・・
- ・がん治療施設として5施設（府立医大・京大・京都市立・一日赤・二日赤）に公開しているが、情報提供先としての不公平さが課題となっている。
- ・空床情報は、在宅医へも公開する予定はあるのか。
  - 現フォーマットは誰でも更新できてしまう。また、パスワードも一人歩きしてしまう可能性があるため、公開範囲の拡大を決めかねている。
- ・フォーマットをどこかのホームページに掲載することはできないか。
  - 当初はそのような形で作製していたので、可能。

#### 4) 京都共通のPCU申し込み用紙（相談用紙）

- ・以前から要望があったので、作成することとなった。まずは緩和ケア病棟・ホスピス連絡会議で作成、その後、緩和ケア部会の先生方に見ていただくこととする。
  - ・必要な情報は、申し込むタイミングで異なるのではないか。
    - 仰る通り。今後、WGで検討する。
- ⇒部会と連絡会議の両方に属する施設が、両者の意見をまとめて作成することとなった。

## 6 研修報告

### ●緩和ケア研修会（PEACE）

- ・2020年度に比べ開催施設数は回復したが、自施設医師のみとしているケースが多く、開催施設以外に所属している医師の受講機会が減った。外部医師の積極的な受け入れをお願いしたい。

### ●看護師研修会議（ELNEC-J）

- ・今年度、自施設開催は12施設（目標：2023年までにできれば21施設以上）。
- ・部会開催では、①完全オンライン型と、②講義をオンライン、グループワークを対面とするハイブリッド型で同日開催し、計122名が受講。
- ・来年度も①を京大が、②を府立医大がリードする形で開催予定。
- ・近年、綾部市立病院に参加いただけていないので、声掛けさせていただく。

## 7 その他・情報交換

特になし